



～あいさつを通して～

文責 教頭 本田靖

先日、我が町の大泉市長がお一人で銭亀沢小学校を訪れ、朝の挨拶運動に参加しました。この訪問は、市民との直接的な交流を深めたいという市長の強い希望から実現したものです。ちなみに市内全校回っているそうです。

登校する子どもたちに「おはようございます！」と明るく挨拶する市長の姿は、とても印象的でした。子どもたちも驚きながらも元気よく返事をし、学校全体に温かな雰囲気が広がりました。特に、本校児童会が取り組む『ハイタッチ』をしながら挨拶を交わす運動が、市長の心にも残ったようで、市長と子どもたちの距離がぐっと縮まり、笑顔があふれる場面が見られました。



この取組は、市長が来てくれたというサプライズだけに留まらず、挨拶の大切さを再確認する良い機会となりました。挨拶は人と人とのつながりを生む大事な行為であり、地域社会の一員としての意識を育むものです。挨拶は私たちの人間関係を

豊かにし、コミュニケーションの基礎を作るものだと実感しています。特に、初対面の人や新しい環境では、挨拶がその後の関係に大きな影響を与えます。挨拶をすることで、相手に対する関心や敬意を示すことができ、自然と心の距離が縮まります。挨拶は、時に短い言葉ですが、その背後には深い意味があることを忘れてはいけません。

保護者の皆様におかれましても、家庭での挨拶をさらに大切にしていいただければと思います。朝のひと声が、子どもたちの心を明るくし、学校生活をより楽しいものにする手助けになるでしょう。今後も子どもたちが心豊かに成長できる環境を共に作っていければと願っています。



～裏面：前期学校評価へのご協力ありがとうございました。集約結果をまとめましたのでご確認ください。～

〈11月の主な予定〉

- 1日(金) 5時間授業 前日準備
- 2日(土) カルチャーフェスティバル当日
- 3日(日) 文化の日(祝日)
- 4日(月) 振替休日(祝日の振替)
- 5日(火) 振替休業日(カルフェスの振替)
- 6日(水) 社会科見学3年
スクールカウンセラー来校 12:30～16:30

- 7日(木) 児童会活動
- 9日(土) 家庭学習強調週間(～21日)
- 11日(月) 読書週間(～22日)
アウトリーチ(華道)5, 6年
- 12日(火) 津波対応学習(訓練)
- 14日(木) クラブ活動
- 15日(金) 租税教室6年
- 19日(火) 社会科見学3年
- 26日(火) 学習参観(3, 4時間目)
- 27日(水) 給食費引き落とし日



～ 前期学校評価アンケート(児童・保護者・職員)集約結果を受けて ～

【比較的満足度の高い項目について】

- 項目『人が困っているときは、進んで助けている』
⇒助け合うという姿勢が備わっている表れ。縦割り班活動の成果と読み取ることもできる。
- 項目『問題を解決するときに、これまでの経験や学習で学んだことをもとに自分の考えをもつことができる』
⇒自分の考えをもつ力が備わっている表れ。3者とも前年度より評価が高い。
- 項目『クロムブックなどの ICT 機器を活用した授業を進めている』
⇒教室環境の整備や個別最適、協働的な学びの充実が図られてきている表れ。児童の評価は大幅 UP。
- 項目『スポフェスに進んで参加し、あきらめずやり遂げたり友達と協力したりして達成感や充実感を感じていた』
⇒きりぎりプロジェクトが、子どもたちの主体性や自己有用感を高める効果的な取組となっている表れ。
- 項目『進んで運動に取り組み、体を動かすことを楽しんでいる』
⇒児童、保護者は、体力・運動能力の伸長を実感している。職員はさらなる向上に期待している。
- 項目『学級生活をよりよくするために話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている』
⇒子どもたちの主体性や自己有用感を育む教育活動の充実が図られている表れ。
- 項目『学校の授業はわかりやすいと思っている』
⇒教科指導力や生徒指導力向上のための教材研究や研修への取組が成果として表れている。

【課題となりそうな項目について】

- 項目『自分にはよいところがあると思っている』※児童の評価が低い
➡児童一人一人のよいところが自己認識できるように、周囲の言葉かけや具体的な評価を心がけたい。また、児童同士の人間関係が良好であれば、自己肯定感も高まるであろう。児童同士で認め合える具体的な活動を取り入れることは効果的ではないか。引き続き、丁寧な学級経営に努めたい。
- 項目『自分で学び方を考え工夫することができている』※保護者の評価が低い
➡宿題や家庭学習においても、探求的な学習や課題解決的な学習を取り入れることも考えられる。
- 項目『失敗を恐れなくて挑戦している』※保護者、職員の評価は低いが、児童の評価は高い
➡児童の小さな挑戦や努力も当たり前と思わず、認めてあげる姿勢が我々(職員・保護者)に求められている。また、何かに取り組む過程における児童の葛藤や迷いもつぶさに捉え、結果だけで判断しないことも大切。
- 項目『探求的、主体的、協働的に取り組み、地域や社会に関わろうとしている』※保護者の評価が極端に低い
➡学習や体験したことが、実生活の中で生かせるところまで見通した学習計画が必要となるのだろう。地域社会の一員として、地域とどう関わり、どんな役に立てるのかという視点をもっと重視する必要がある。

【記述から】

- 児童や保護者から日頃の教育活動に関する感謝の気持ちがたくさん寄せられ、教職員の励みになっております。その一方で、嫌な思いをしている児童の訴えや家庭学習の取組についてのご意見もありました。
➡引き続き、児童の観察(複数の目で、死角となる時間や場所をできるだけ作らないように)を続けるとともに、道徳の時間や学級会活動などを通して、日常的に生活、生徒指導を行い予防に努めます。いじめに関するアンケート調査においても、嫌な思いをしている児童がいることを確認しています。迅速、丁寧な対応を徹底することやいじめ対策委員会を設置することなど、体制を整えています。

【生活リズムに関するアンケートから】

- 前年度比で捉えると、早寝早起きや朝食をとること、ゲームやテレビ視聴などの時間において、若干の改善がみられる。引き続き、児童の健全な育成のために児童・保護者・職員が共に意識を高めていく必要性を感じる。